

PRESS RELEASE

2024年1月17日
株式会社 ispace**ispace EUROPE、ルクセンブルク大公国首相と歴史的な
ミッション 2 打ち上げの瞬間を共有**

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）（証券コード 9348）の欧州法人である ispace-EUROPE S.A.（以下 ispace EUROPE）は、2025年1月15日（水）に、ルクセンブルク大公国にとって歴史的なミッションとなる Mission 2 “SMBC x HAKUTO-R VENTURE MOON”（以下ミッション 2）の打ち上げの瞬間を共に見守るべく、同国のリュック・フリーデン首相をお迎えしたことをお知らせします。



ispace EUROPE の施設にてフリーデン首相をお迎えする従業員

フリーデン首相は、ispace EUROPE の施設（マイクロローバーのオペレーションシミュレーション施設や管制室）を見学後、現地従業員と共に、東京で開催されたミッション 2 の打ち上げイベントの様子をライブ配信で視聴しました。また月面着陸後、どのように RESILIENCE ランダーから TENACIOUS ローバーが月面に展開され、運用されるかについての説明を受けました。

ispace EUROPE は、2017 年 3 月にルクセンブルク政府の宇宙資源開発の商業化を支援する SpaceResources.lu イニシアチブとの協力協定に基づき設立され、以来、ルクセンブルク大公国を欧州における宇宙資源探査と利用のハブとすべく、LuxIMPULSE プログラムの一環として、ルクセンブルク宇宙機関との共同資金でマイクロローバーの開発を行っています。

■ TENACIOUS ローバーについて

TENACIOUS ローバーは、高さ 26 cm、幅 31.5 cm、全長 54 cm、重さ約 5 kg です。ランダーの上部にあるペイロードベイに格納され、月面着陸後に展開機構を用いて月面への着地と走行のための展開を行う計画です。軽量かつロケットの打ち上げ等の振動に耐える頑丈性を実現するために、躯体には CFRP（炭素繊維複合材料）が採用されています。

ローバー前方には HD カメラが搭載されており、月面上での撮影が可能です。月の特殊なレゴリス環境の上でも安定した走行ができるように、車輪の形状が工夫されています。コマンドやデータの送受信はランダーを経由して管制室と行われます。

■ ispace EUROPE CEO、Julien-Alexandre Lamamy コメント

「この歴史的な日に、ミッション 2 の打ち上げを記念してフリーデン首相をお迎えできることを光栄に思います。また、あわせてこの日を迎えられることを、心より嬉しく思います。ルクセンブルク政府はこれまで長年にわたり ispace を力強く支援して下さいっており、その成果であるヨーロッパ初の月面探査車『TENACIOUS ローバー』を誇りに思います。」

■ ルクセンブルク大公国 リュック・フリーデン首相 コメント

「ルクセンブルク製で欧州初のローバーが、ispace の RESILIENCE ランダーに搭載されて打ち上げられた瞬間に立ち会えたことは、私にとってとても興味深く、そして誇らしい瞬間でした。この歴史的な瞬間は、同社の優れたエコシステム、ノウハウ、そしてルクセンブルクと日本の良好な協力関係の証です。イノベーションこそが、私たちの競争力のカギとなるでしょう。」

ispace は、日・米・欧の 3 法人でそれぞれの地域の文化や多様性を活かしながら、1 つの統合的なグローバル企業として宇宙開発を進めてまいりました。2025 年 1 月 15 日に日本法人が主導するミッション 2 の打ち上げを完了、続いて 2026 年には米国法人が主導するミッション 3 を順次実行していく計画です。また、2027 年には、現在日本で開発中のシリーズ 3 ランダー（仮称）を用いたミッション 6 を予定しています。世界中の政府、企業、教育機関からの高まる需要に応えるため、ispace はミッション 3 およびそれ以降のミッションのペイロードサービス契約とデータサービスを提供してまいります。

■ 株式会社 ispace (<https://ispace-inc.com/jpn/>)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセ

ンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在約 300 名のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った 5 チームのうちの 1 チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022 年 12 月 11 日には SpaceX の Falcon 9 を使用し、同社初となるミッション 1 のランダーの打ち上げを完了。続くミッション 2 の打ち上げは 2025 年 1 月 15 日ⁱに完了し、ミッション 3 は 2026 年ⁱⁱ、ミッション 6 は 2027 年にⁱⁱⁱ打ち上げを行う予定。

ミッション 1 の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション 1 マイルストーンの 10 段階の内 Success8 まで成功を収めることができ、Success9 中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション 1 で得られたデータやノウハウは、後続するミッション 2 へフィードバックされる予定。更にミッション 3 では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によって NASA が行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

■ HAKUTO-R (<https://ispace-inc.com/jpn/m1>)について

HAKUTO-R は、ispace が行うミッション 1 およびミッション 2 を総称する、民間月面探査プログラム。独自のランダー（月着陸船）とローバー（月面探査車）を開発して、月面着陸と月面探査の 2 回のミッションを行う。SpaceX の Falcon 9 を使用し、2022 年にミッション 1（月面着陸ミッション）のランダーの打ち上げを完了。2025 年 1 月 15 日^{iv}にはミッション 2（月面探査ミッション）の打ち上げを完了。

オフィシャルパートナーである株式会社三井住友銀行により命名された Mission 2 “SMBC x HAKUTO-R VENTURE MOON”には、新たな始まりやチャンスの意が込められている。

HAKUTO-R はオフィシャルパートナーとして株式会社三井住友銀行、コーポレートパートナーとして、日本航空株式会社、三井住友海上火災保険株式会社、日本特殊陶業株式会社、シチズン時計株式会社、スズキ株式会社、高砂熱学工業株式会社、SMBC 日興証券株式会社、S k y 株式会社、Epiroc AB、株式会社ジンズ、栗田工業株式会社が参加している。

ⁱ 2025 年 1 月時点の想定

ⁱⁱ 2025 年 1 月時点の想定

ⁱⁱⁱ 2025 年 1 月時点の想定

^{iv} 2025 年 1 月時点の想定